

港南台タウンカフェ通信

ふ〜のん

風わたる穏やかなまちの情報誌

2015.10 vol.6

¥こころ 



特集 港南台公園マップ

中学生レポート#15-17 中学生、仕事人に出会う

ころBOXレポート

さあ、冒険にしよう！

遊びが育てる人・まち・未来

港南台生き生きプレイパーク代表 岡野 富茂子さん

想いを形にする感性と技の職人

ジュエリーデザイナー 岡本 征一さん



contents

- 02 ココドコ？
- 03 ころBOXレポート> close up 活き活き人
さぁ、冒険にしよう！
遊びが育てる人・まち・未来
港南台生き生きプレイパーク代表 岡野 富茂子さん
- 05 港南台まちなか1000人インタビュー [vol.6] PART 1
2015年夏・編
しあわせだなぁと感じるときは？
- 06 中学生レポート # 15-17
中学生、仕事人に出会う
中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト
- 13 想いを形にする感性と技の職人
ジュエリーデザイナー 岡本 征一さん
- 15 特集 港南台公園マップ
- 17 港南台まちなか1000人インタビュー [vol.6] PART 2
しあわせだなぁと感じるときは？
- 18 すたっふつぶやき バックナンバー

ココロ？



昭和30年代



昭和50年代

港南台駅から徒歩3分。
駅前通りの同じ場所から見た昭和30年代、
50年代、そして現在。



現在

写真提供／北見高利氏

さあ、冒険にしよう！
遊びが育てる人・まち・未来



港南台生き生きプレイパーク 代表
岡野 富茂子さん Tomoko Okano

レポート◎鳥海知恵子 / 金子いづみ 文◎鳥海知恵子 撮影◎金子いづみ 取材日◎2015年8月2日

ターザンロープに竹林の秘密基地。空まで届きそうなロープブランコ。小腹がすいたから、と火を起こしてオヤツを焼いてみる子、のこぎりやくぎ打ちを楽しむ子。子どもが自分の責任で好きなことを好きだけ楽しめる宝箱のような遊び場が、今年で10周年を迎えます。港南台中央公園内にある『港南台生き生きプレイパーク』代表の岡野富茂子さんにお話を伺いました。

安全なのは塀の中？

今から約40年前、岡野さんは夫君の仕事の都合で4年半ベネズエラで暮らしていました。当時のベネズエラは治安が悪く、戸外をのんびりと歩くこともままならないほど。高いフェンスで囲まれた中だけの安全な生活に大きな衝撃をうけます。子どもが自由に遊べない国に未来はあるのだろうか。違和感を抱えたまま長男を出産、2歳になる頃家族で帰国します。

子どもはどこに？

日本に帰ればおおらかに戸外で子どもが遊んでいるはず！そう考えていましたが、開発と共に身近な自然や空き地は姿を消し、子どもたちが家の前



の道で遊ぶ姿もみられなくなっていました。外でのびのびと遊べないまちで子どもたちは健やかに育つのだろうか。深い危機感を覚えたといいます。その後、港南区の初企画となる乳幼児親子の会に参加。共に育ち合う大切さを感じた岡野さんは、仲間とともに港南区第1号となる子育てサークル『なかよし会』を立ち上げます。ある時、子どもたちと遊んでいた野原が公園として整備されると聞き、なかよし会として「野原を残すことはできないか」行政に問い合わせをします。すると、緑政局の人が自宅に要望を聞きに来てくれたそう。想いを外に向かって発信したら誰かに届く。それは嬉しく大きな発見でした。

未来の子どもたちへ

子育て期間のお母さんたちは「こうだったらいいの」と体験に即したア



アイデアを口にします。けれどわが子の成長にしたがって次第に関心事はうつっていく。自分の子どもだけではなく未来の子どもたちへ、誰かが腰を据えてひとつの課題に取り組んでいくことが必要ではないか。そう感じていた時、1枚のチラシが目にとまりました。『まちづくりにアイデアのある人募集!』それは区役所の新企画、港南まちづくり塾からの呼びかけでした。その言葉に大きく背中を押され応募。1996年「子どもの生き生きスペースづくり塾」を発足。集まった仲間とともに、子どもたちが自由に遊べる環境を作るために、試行錯誤を始めています。たくさんの勉強会や遊びのイベントを行い、その思いは次第に、プレイパークづくりへと具体性をもったものになっていきました。港南まちづくり塾の事業は3年で満期を迎えましたが、その後もプレイパーク作りに奔走する日々が続き、そして2005年、地域の理解とたくさんの方の協力のもと、『港南台生き生きプレイパーク』がスタートしたのです。

また一方、横浜市内で、同じような理念の下に活動をしている人たちに呼びかけを行い「横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(YPC)」が発足。市域におけるプレイパークの推進や行政への働きかけにも力をいれます。



考えることをやめないで

プレイパークをつくることだけでなく子どもが生き生きと過ごせるわけではない。もっとたくさんの人たちと子どもが育ちや遊びについて考えていきたい。岡野さんは子育て連絡会や港南台放課後クラブ、外遊びを考える会など、精力的に活動を広げていきます。『港南の絵本をつくらう会』では港南区で幼少期を過ごした人たちの「子どもの頃の遊び」について聞き取りを行い、子育て中のママたちとヒアリング集にまとめました。川遊びや凍った田んぼでの竹スケート。次々と飛び出す豊かな遊びの体験。高齢の方ほど日常的にダイナミックに遊んだ記憶があったそう。生き生きと語る姿に確かな「遊びの力」を実感します。その後数年をかけて『まいにちがアドベンチャー』という絵本を作って出版しました。また、このヒアリングがきっかけで、子ども

たちが遊べる川を取り戻そうという笹下川再生プロジェクトが立ち上がったことも嬉しかったと語ります。

本当の夢はプレイパークが必要ない世界

生き生きプレイパークができて10年。念願だった遊びの支援者、プレイリーダーを常駐することもできました。けれど、「本当の自分になれるのはここだけ」と呟く子がいます。「子どもの頃に近くにこんな場所があればよかったのに」そう呟く若い親がいます。子どもをとりまく日常の環境は未だ豊かとはいえません。幸い、港南台には子どもの育ちを考え、様々な活動を支援してくれる方々がいます。日常的に子どもたちが豊かに遊べるために、このまちでなら理解の輪が広がっていくのでは。岡野さんはそう語りまします。プレイパークが孤立した塀の中の遊び場にならないのは、まちの人とともにゆつくりとしっかりと根っこをおろし続けてきたからなのでしょう。



港南台生き生きプレイパーク
 【開催日時】
 第1・3 土日
 毎週火・水・木曜
 10時～17時 (12月のみ16時半まで)
<http://ikiiki-playpark.jimdo.com/>

[vol.6] 2015年夏・編

創刊号 1～66人
 vol.2 67～114人
 vol.3 115～145人
 vol.4 146～169人
 vol.5 170～197人 まで掲載



198. スマイルキ スタッフ



199. 港南台タウンカフェ ボランティア



200. ライフブランクリニック 院長



201. 港南台地域ケアプラザ 所長



202. 日本語勉強中! オーストラリア出身



203. かつぱ天国 店長



204. 龍ちゃん 店主



205. nicotto 店主



206. 夢見る乙女



208. エルウェーブ 指導主任



207. そよかぜ南の家のみなさん

しあわせだなあ
 と感じるときは？
 PART ①



中学生、仕事人に出会う

中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト

中学生レポート #15-17

6年目を迎えた「中学生、仕事人に出会う」。
街の中で出会う、たくさんの「気になる仕事」。
その中から自分達が選んだ取材先に緊張してかける、
初めてのアポ取り電話。知りたいことをメモに準備し、
写真撮影もインタビューも文章作成も自分たちの手で
行い、誇らしいレポートが完成しました。
投げかけた質問に意外な答えが返ってきたり、
そこから『もっと知りたい』が広がったり。
中学生が深めた「働く」ことへの思い。
フレッシュな感性で作りに上げたレポート、
どうぞお楽しみください。

「中学生、仕事人に出会う」レポート活動概要

活動期間：2015年2月～5月

レポーター：齋藤 愛、高田 真子、根本 愛美、古川 小春、宮川 彩、
吉田 鈴那、吉田 流那

(港南台第一中学校2年生：2015年3月現在)

サポーター：岡野富茂子、小林紫織、塩崎水映子、丹羽摂子、万木弘美

協力：港南台第一中学校、横浜港南台商会

取材協力：ブルージュの丘/ちほり堂/こどもっと保育園

運営事務局：港南台タウンカフェ(株式会社 イータウン)
<http://www.town-cafe.jp>

このレポートは、ウェブサイトにも公開されています。
<http://www.e-town.ne.jp/feature/shigoto/>
#1-14 はバックナンバーをご覧ください。

サポーター



おいしいケーキに出会い、そのおいしさの秘密を知りました。店長さんの情熱、プロ意識、大人として若者に対しての温かいエールも感じることができました。それを受けとめ、きれいにまとめあげた中学生の力にも驚きました。楽しかったです。「楽しい」は大切ですね。(万木 弘美)



若い心に響いた大人の言葉が、次々とノートに書き留められ、今度は中学生らしい文章になってまとめられていく過程に目をみはりました。普段の生活の隣にあった、「働くこと」との出会いと発見が、みんなの未来にいくつもの道を広げたのではないのでしょうか。(塩崎 水映子)



中学生二人が事前準備をしたり、リポートした事の内容を吟味し取り組む姿勢がとても素敵でした。取材を受けた先生方が温かく、丁寧に対応して下さい、地域の子育てを支える姿が印象的でした。そんな経験が出来て、頑張る中学生とも交流が出来、素敵な企画に感謝しています。

(小林 紫織)



ちほり堂さんのお仕事に対する情熱と誠実さが伝わってきて、心にしみるひとときとなりました。とても積極的に行動力のある中学生レポーターのみなさんでしたが、自分自身のありようも振り返ってレポートを仕上げたことで、また一つ大きくなったように感じました。(岡野 富茂子)



皆、初めてと思えない程ときばきと段取りよく役割分担も決められ、記事を通して伝えたい物が明確で何より文章力がある。将来、今回の経験を活かして、人に何か伝えたり、人と関わる仕事に就いてくれたらいいな、と勝手に思っています。(丹羽 摂子)



幸せになれるケーキ屋さん

ブルージュの丘



店主 柏崎 裕美子さん Yumiko Kashiwazaki

インタビュー・文◎根本 愛美・宮川 彩 記録◎宮川 彩 撮影◎吉田 流那
 サポーター◎塩崎 水映子・万木 弘美
 取材日◎2015年3月4日



色鮮やかなケーキが迎えてくれます

お誕生日やクリスマスで大活躍のケーキ屋さん。その中でも、おいしさが評判のブルージュの丘に、そのおいしさの秘密や経営の努力と工夫など、多くのことを教えて頂きました。

おいしさの秘密

お店に入ると、甘いお菓子の香りが広がります。取材を受けて下さった柏崎店長は、おいしいお菓子を作るために材料に手抜きはせず、天然のものを使っています。特に生クリームにふいこだわりがあるそうです。千葉県から仕入れることで、新鮮で、濃くて質の良い生クリームができます。ほかに、飾りのチョコレートを工房で作り、フルーツも旬なものを使います。また、ケーキは今日中、焼菓子は1〜2週間で、賞味期限が短いのも特徴です。工房からケーキの減り具合を見て精算調整するため、無駄なく、おいしいケーキを並べることができます。時間のたったお菓子は確実に味が落ちてしまいます。

お店の誕生

自分のお店を持ちたいと思っていた柏崎夫妻。お菓子のルーツや伝統を探

りに、ヨーロッパに渡りました。

そこでブルージュの町並みが好きになり、店名にすると決めました。そしてついに28年前、お店を持ち、港南台が高台にあるため丘をつけ、「ブルージュの丘」という店名が誕生しました。

働くこと

現在、パティシエが8人、売る人が16人います。しかしそれでも足りません。柏崎店長は店員に対して大切にしていることがあります。それは作る人・売る人自身が幸せな気持ちでいるということです。売る人が幸せでなければ、ケーキを買って食べるというわくわくを壊してしまいます。そうなるとおいしいケーキも最低な味になると言います。「お金をもらっているのにさらに、ありがたうと言ってももらえるとうれしいです」と、柏崎店長はおっしゃいました。実際に、店員さんたちからは楽しさが伝わってきます。

働くことのキーワードは「楽しい」です。柏崎店長は「成功は副産物」とおっしゃいました。成功しそうだからやるのではなく、成功に向けて工夫したり、時には挫折も必要です。

柏崎店長は昔、女性のパティシエがあまりいない時代にお菓子を作るこ

とを決心し、努力してお店を持ちました。パティシエになるきっかけは、自分が何になりたいか考えた時、そういえば、小さいころから料理が好きだった。と、今までしてきたことを思い出したからです。もしかしたら私たちも、今の趣味や何気ない出来事が将来の夢につながるのかもしれない。



ガラスの透かし彫りはブルージュの町並み

取材では、とても緊張しましたが、無事に終えることができ安心しました。大好きなケーキをもっと知ることができ、将来についても考えさせられました。記事にまとめるのは難しかったです。しかし、出来た文章を柏崎店長がほめてくださったので、本当に良かったと思います。ありがとうございました。(根本 愛美)



文章にまとめることは今回が初めてだったのでとても勉強になり、楽しかったです。店長さんにはケーキやお店のこだわりなども教えていただきましたが、将来のことなどとてもためになることも教えていただきました。これからも今回の経験を生かしていきたいです、ありがとうございました。(宮川 彩)



初めて取材で、たくさんを学び、知ることができました。材料のこだわりや、店員の方に対して大切にしていることを聞き、勉強になり、面白かったです。「成功は副産物」という言葉が一番心に残り、私も何かをするときは、楽しんで、成功に向けて、工夫をしたいと思いました。(吉田 流那)



(有) ブルージュの丘
横浜市港南区港南台 8-34-5
営業時間：平日 10:00-19:30
日・祭日 10:00-19:00
定休日：月曜日(祭日の場合 火曜日)
TEL：045-833-9838
HP:<http://www.brugs-heuvelyje.co.jp/>



自然の味を届けます 100%のこだわり

ちぼり堂

人見 智恵子さん Chieko Hitomi

インタビュー・文◎高田 真子 記録◎古川 小春 撮影◎齋藤 愛

サポーター◎岡野 富茂子 丹羽 摂子

取材日◎2015年2月26日

港南台第一中学校の近くにある小さなはちみつ屋さん「ちぼり堂」。

このお店を始めたきっかけは、店主さんがミツバチを大好きで養蜂家になりたいと思ったからでした。もともと店主さんはサラリーマンで奥さんは専業主婦。店主さんは会社をやめて、奥さんと協力してお店を開きました。

ちぼり堂には、ブルーベリーやかぼちゃなど、スーパーなどではお目にかれない種類のはちみつがあります。三浦半島や湯河原港南台から近い円海山などでもはちみつを採っているのが、身近な場所での自然の味を楽しむことができます。ちなみに円海山ではさくらやふじ、アカシヤのはちみつが採れるそうです。商品を見せていただいて、いろいろな場所に行ってはちみつを採っているから、こんなにも沢山の種類があるのだな、と納得できました。

はちみつの豆知識

はちみつってどれくらいもつのだろう？皆さんは考えたことがあるでしょうか？奥さん曰く、エジプトのピラミッドの中にあつたものが今でも食べられる程永く、つまり何百年、何千年ももつのだとか。だから固まってしまったものでも、おいしくいただけるのだそつです。



この中にはちが集めたはちみつが入っています。

欲しいものを欲しい量だけ

「はちみつを買う時には、使いきれぬ量を買うことがオススメ」と、奥さんはおっしゃっていました。ちぼり堂では、試食をすることができるので、味を確かめてから欲しいはちみつを選ぶことができ、量り売りをしてくれるので、容器を持っていくと欲しい量だけ購入することができます。

環境にも、お財布にも優しいところもちぼり堂の魅力の一つなかもしれません。

自然とともに

「はちみつを採る時の最大の難関は、お天気！」と奥さんはおっしゃっていました。はちみつは、いつでも自在に採



色も味も全然ちがう、いろいろなはちみつを試食できます。

れる訳ではありません。お天気が悪いとミツバチが働けないのではちみつを採ることが困難になります。時には悪天候が続いてはちみつが思うように採れないことも。自然は恵みを与えるけれど、厳しい時もある…それを肌で感じながら仕事をしている店主さん達の妻さを改めて感じました。

100%を目指して

ちぼり堂では、純度100%のはちみつがお店に並んでいます。市販の安いはちみつの中には余計なものが入っていたりするものもあるのですが、実際ちぼり堂のはちみつを食べてみると、スツキリしていて味が全然違います。

また、一つの花のはちみつを求めていても、ミツバチの判断で近くにある別の花のはちみつを採ってくる時もあるそ

うです。ですから、必ずしも100%同じ花のはちみつが採れるという訳ではありません。一つだけの花のはちみつを採ることは難しいことだそうですが、店主さんは一つの花(単花)のはちみつの純度をどれだけ上げられるかを日々考え、できるだけ花ごとにはちみつを採るようにしているそうです。

私たちが過ごしている毎日の生活も同じことで、全てが100%にできるということはないと思います。でも、どんなに小さなことにも一つずつ100%を目指して取り組めば、満足感や達成感が生まれてくるはず。私たちもちぼり堂のはちみつのように、100%をめざして毎日を楽しみたいと思います。

ミツバチや自然への感謝の気持ち、そしてお客様への思いを込めてはちみつを採っている「ちぼり堂」。小さなお店だけれどはちみつに対しての思いは負けない、そんなお店です。



ちぼり堂
横浜市港南区港南台 6-4-11
営業時間：10:00～19:00
定休日：月曜日
TEL：045-835-1383



インタビューはとても緊張しましたが、お店の人とのコミュニケーションを上手にすることが出来てよかったです。

取材を通して仕事の大切さもそうですが、地域の方々のつながりも大事だと改めて気づきました。未来の港南台を作っていくのは私たちなので、これから地域の行事に積極的に参加し、少しでも貢献できたらと思います。(高田 真子)



原稿を書くときに、取材をしている側は文章の内容を理解していても、読んでいる人には伝わりにくい部分もあって大変でした。伝えたい内容がたくさんあって特に重要なところをまとめて書くということも大変でした。写真撮影をしながら、ちぼり堂さんが伝えたいことや仕事の大変さ、楽しさを感じることが出来てよかったです。(齋藤 愛)

分もあって大変でした。伝えたい内容がたくさんあって特に重要なところをまとめて書くということも大変でした。写真撮影をしながら、ちぼり堂さんが伝えたいことや仕事の大変さ、楽しさを感じることが出来てよかったです。(齋藤 愛)



書記をやらせていただきましたが、メモをとりながらはちみつに対するちぼり堂さんの熱意が感じられました。

他のレポーターもインタビューを通して大人の方々の仕事に対する思いやそれぞれ聞けたと思います。その思いを読者の皆さんに感じて欲しいと思いつつ文章を考えました。とても大変ではあったけれど、いい経験ができてよかったです。(古川 小春)



こどもと もっと幸せに



こどもっと保育園

NPO法人 港南台こどもっと

理事長 勝浦 いづみさん

Izumi Katsuura

インタビュー・文◎吉田 鈴那 記録・文◎古川 小春

撮影◎小林 紫織・田中 美和

サポーター◎小林 紫織

取材日◎2015年3月2日

昨年「保育室ぼびんず」から名前が変わった「こどもっと保育園」。「こどもっと」の名前には「子どもっと幸せに」「子どもっと仲良く」という保育士さんや保護者さんの思いが込められています。

※平成28年4月1日、こどもっと保育園は現在の横浜保育室から移行し、乳児認可保育所（0〜2歳児対象）として新園でスタートします。

保育園を作った理由

自分たちが暮らしているまちが子育てしやすいまちになるといいなと思ったこと、日々子育てを頑張っている保護者の人達を手伝いたい、母親だけでなく一人の女性としての時間も大切にしたい、そんな思いから「こどもっと」は作られました。少しの間でも子どもを預かって欲しいという人のために一時保育も行っています。預ける前に、どんな風に保育をしているのかわかるよう見学もできるようにしています。

「こどもっと」の自慢

「こどもっと」の自慢は、先生同士の

仲が良く、地域の人や他の保育園とも関わりが深いところです。NPO法人の保育園なので、会員が皆でどんな保育園にしていきたいか考えて運営をしているのもいいところです。

勝浦先生も、「子ども達には人との関わりを大切にしながら家庭的な雰囲気でも過ごして欲しい」とおっしゃっていました。私たちが実際に保育の様子を見学した時も先生たちが周りに目を配り、考えながら保育しているおかげで子どもたちが自由に遊んでいてとても楽しそうでした。想像力を広げるためにブロックを使って遊んだり、手作りの遊び道具などを取り入れ保育していました。

また、給食は生活クラブ生協のが安全な食材を使っていて、美味しいところも自慢のひとつだそうです。

保育士さんの仕事について

保育士さんが子どもと接する時に気をつけていることは、上から見おろさないようにすることだそうです。大人は子どもとは違って身体が大きいので、立ったまま子どもを見てしまうと子どもが怖がってしまいます。だからひざ立ちになったり座ったりして子どもと接するようにしているそうです。



上：子どもたちと一緒に遊んだり、読み聞かせにも挑戦しました。
下：手作りのアイデア溢れる遊具

また、子どもたちは家族ではない保育士さんたちにどう接していいのかわかりません。なので、相手を受け入れるようにして接するよう気をつけているそうです。実際に見学をさせていたいた時、保育士さんは一緒に座り、子どもが自分で遊べるようサポートをするように接していました。勝浦先生は、子どもたちがいろいろなことができるようになる成長過程を間近で見られることが嬉しいとおっしゃっていました。大変なことは、まだ小さな子どもたちなので、うまく言葉で自分の意志が伝えられず、「コミュニケーションがうまくとれない時があることだそうで

す。そのせいでたまに子ども同士でけんかになってしまい、引っ掻いたり噛み付いたりしてしまうこともあるそうで、保育をするのは色々難しいんだなと思いました。

保護者さんに対して

「保育士」という子どもを預かって育てるというイメージが強いですが、子どもの保護者さんとのコミュニケーションもとても大事です。お迎えに来た時にどんなことを伝えるのか、気をつけていることは何かをうかがっていると、「話す内容にもよりますが、言葉を選びながら相手の気持ちにできるだけ寄り添うようにして、どんな事を思っているのか考えながら話しています」と答えて下さいました。



季節の行事も大切にしています。

自分の子どもを預けるので不安を感じてしまう保護者さんもあるそうで、そういった不安をなくせるように保育士さんは日々努力しているのです。不安をなくすために行っていることの一つとして、日々の送迎時の会話や親子で一緒に遊ぶ行事「運動会（ファミリーデー）」があります。この運動会は親子のつながりのためだけでなく、保護者の人たちが交流を深める良い機会になっているそうです。

「こどもっと保育園」を訪ねてみて

こどもっと保育園は、親子のつながりを大切にしたり、また親同士のつながりもあり、先生たちの仲が良くとても温かい保育園でした。こういう豊かな人間関係を私たちも築いていきたいと思いました。



NPO 法人 港南台こどもっと
横浜市港南区港南台 5-5-11
開園時間：平日 7:30-19:00
土曜日 7:30-15:30
HP:<http://www.kodootto.jp/>



私は今回こどもっとさん取材して多くの事を学ぶことが出来ました。保育士の方が子どもと接する時に気をつける事や、保護者に対する気遣いなど色々な事を知りました。私もそういう小さな気遣いを大切にしたいと思いました。
(吉田 鈴那)



今回こどもっとに取材に行かせていただき、人と接する事の大事さ、つながることのあたたかさを感じる事が出来ました。インタビュー後に子どもたちと遊ばせていただき、とても楽しかったです。今後もこういう機会があればまたやりたいと思います。(古川 小春)

ジュエリーデザイナー

岡本 征一さん

Seiichi Okamoto

想いを形にする 感性と技の職人



文◎菅野 裕子 撮影◎齋藤 保 取材日◎2015年7月21日

「ジュエリーって、日常と違う何かきっかけがあって買うもの。リフォームでお預かりするのは、替えのきかない大切なものです。そこにある『想い』を大事にして作ります。きっと喜んでいただけるだろうと思います。」

ジュエリーのリフォームや修理、フルオーダーを一手に引き受けるジュエリーデザイナー岡本征一さんを訪ねた。

○一ミリ単位で緻密な作業を行う技術。アーチストと職人の技を併せ持つところが岡本さんの強みだ。デザイン画を実寸で手描きし、溶かす・削る・磨くなど殆どの工程を手作業で行う。

「2時間かけて聞くのは主に、ジュエリーコーディネーターなどの資格を持つ有紀子さんだ。岡本さんは少し離れた作業台で仕事しながら、背中でのやり取りを聴く。」

「面と向かうより、女性目線で得た情報だけの方が、デザインを描きやすかったりするんです。なあ。」。店のどこかにいる有紀子さんにあいづちを求めるたびに、辺りは温かな空気で満たされる。「妻の接客は100%信頼していますよ」。屈託のない笑顔で言い切るところが、岡本さんの人を引き付ける魅力だ。

リフォームとは

お客様の希望を聴きつつ、更にプロの目線で行くか提案を加える。「最高にお似合いになるもの、使いやすいものは何かを考えて形にする。楽しいですよ」。同じデザインを、2度とは使わない。

「リフォームの場合は石を全てバラバラに外し、地金は溶かします。パズルに近いですね」。上の写真のリングは、ダイヤなど63個の石すべてがのり付けではなく、地金を刻み込んで作った爪でとめられている。しかも材料の95%はお客様お手持ちのジュエリーだ。片方だけのピアスや壊れたブレッ

港南台駅から徒歩3分。季節の花で彩られた階段を下ると、ガラス越しに自然光の差し込む岡本さんの作業台が見える。扉を開くとアロマの香り。静かな音楽が流れ、表の喧騒を一瞬で忘れさせてくれる。アトリエ&ショップ『オカモトジュエリー』がオープンして3年になる。



「花のリング」
直径1.3mmから3mmのダイヤ61ピースとアクアマリン2ピースを使用したリフォーム作品。

ジュエリーデザイナーという仕事

代々装飾関係の職人という家に生まれ、5代目。子どもの頃はプラモデルや図画工作が得意で、当時としては数少ないジュエリー職人、父重夫さん

ゆっくりとお話しましょう

この店には、さまざまな「想い」を持ってお客様が訪れる。形見の品や思い出の石。それらにまつわる話を1

に持ち込まれることも多いという。「これまでにお断りしたのは、5%にもならないと思います」。妻の有紀子さんが、側からそつと言葉を添える。



OKAJEE

「スレット、古い指輪などが、見たこともない「花のリング」に生まれ変わった。

仕事する喜び

「日々の喜びって、実はちっちゃなこと。思いのほか綺麗に削れたとか、やすりを上手にかけられたとか。昨日できなかったことが今日できるようになるとすごく嬉しい。いまだに、習熟度は上がっている気がします。いつもの笑顔がふっと真顔になる瞬間がある。「自分でできることが増えれば、安心して修理できるし、誠意が示せる。品質の保障につながります」。

このまちの店、住民としてできること

岡本さんは一昨年、自宅のある地域



ワークショップのようす (2015.8.4)

の自治会長を務めた。連合自治会の役員も引き受け、夏祭りの力仕事や駅前清掃などに汗を流した。「忙しかったけど、父母世代より上の方々と一緒にして可愛がっていただきました。それは楽しかったですよ」。あらためて港南台ってどんなまちか考えるきっかけになったという。「樹が多くて、のんびりしている。静かで落ち着いたまじだと思えますよ」。

現在は、横浜港南台商店会の若手メンバーで組織する「まちある隊」の一員として、まちを元気にする新たな活動に奔走する。

2ヶ月に一度、店内でワークショップを開催している。大人も子どもも本物に触れられる貴重な機会。リピーターは多い。阿古屋貝を取り寄せ、中から真珠を取り出したこともある。

8月は、原石を見るなど子どもの自由研究になるテーマを選ぶ。「将来、ジュエリーショップやりたいっていう中学生もいるんですよ。嬉しいじゃないですか」。

その熱きまなざしは、しっかりとまの未来を見据えていた。

オカモトジュエリー
横浜市港南区港南台
4-23-27 B1
電話 045-835-1233
http://www.okajee.com

どの公園にマロニエが植えられているか探してみよう。公園では野鳥が見られるよ。図鑑を持って行ってみよう。

● 港南台北公園

大きな木や草原、広場のある公園。
毎年4月下旬には「日野ふれあい子どもまつり」が、沢山の鯉のぼりが空に舞うなか行われます。
公園の一角にあるログハウス「どんぐりハウス」には、らせん滑り台や登り棒などがあって面白い！



「港南台は公園が多くて遊ぶところに困らない。プレイパークではなんでもできる!!」(あっきー)



● 港南台中央公園

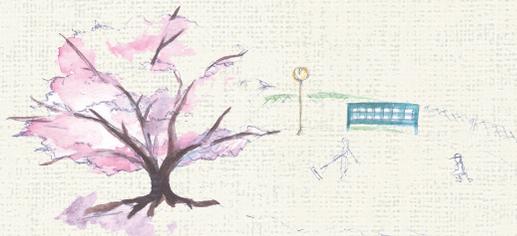
港南台で一番大きい公園。
芝生広場では毎年盛大に「港南台夏まつり」が開かれ、七夕の頃には中央に大きな笹飾りが。毎週土曜日の朝は太極拳の人たちでいっぱい。月1～2回、移動図書館「はまかせ号」で本を借りられるよ。下の広場ではプレイパークで子どもたちがどろんこになって遊んでいます。開催日には竹林にも入れるよ。

● 洋光台緑地公園トンボ池

高速道路脇の緑地。
10年前地域の人たちがトンボ池を作りました。毎年カルガモの親子なども見られるそう。アオサギ目撃情報もあり。

● 港南台南公園

少年からシニアまで、野球を楽しむ姿がみられます。春は桜、秋には紅葉がとても綺麗。
夕方には愛犬家の方々が集まっておしゃべりを楽しんでいます。



● 瀬上市民の森 かながわ富士百景にも選ばれた絶景ポイントあり。

※瀬上池の浚渫工事が9月から来年の3月末まで行われる予定です。



ふ~のん持って、公園に行こう！

港南台公園マップ

文◎塩崎 水映子・岡野 富茂子 イラスト◎田中美和

したんだ

● 四反田公園

愛護会や有志の方の活動によって、数年前とは見違えるように綺麗になり、横浜市からも表彰されるほどの素敵な公園に。花がら摘みやゴミ拾い、雑草抜きなど、地元の方が笑顔で作業しています。四季折々、いつもきれいにお花が咲いていて、気持ち良い、風の通る公園です。



のばおもてまち

● 野庭表町公園

通称たこチュウ公園。住宅の中にあるのんびりした公園。毎月第4月曜日午前中に「公園遊び」をやっているよ。



「私が子どもの頃、港南台のまちは宅地開発の真っ只中で、造成中の広場すべてがあそび場でした。夏はラジオ体操が終わっても、みんな家には帰らないで、草野球してたかな…瀬上の池のたんぼや小川でザリガニ釣りに夢中になり…泥んこになって…時間を忘れて…真っ暗闇のあぜ道に笑い声を響かせながら帰ったことを今も思い出します。」
(ごっち)



港南台にはマロニエの木が100本あるよ！

1日のはじめに体操をして健康になりました！



● 港南台西公園

最近リニューアルされた西公園。名物は、早朝ラジオ体操。夏だけでなく、一年を通じて地元の有志が毎朝集まっています。夏休みは子どもたちがおじいちゃんにセミの捕まえ方を習ったりしながら和やかな雰囲気です。

● みなみが丘公園

近隣の幼稚園や保育園の子ども達の運動会やお祭り、自治会の防災訓練、公園サロンなどに大活躍している公園。シラカシやアラカシの大きな木があり、どんぐり拾いも楽しいですね。



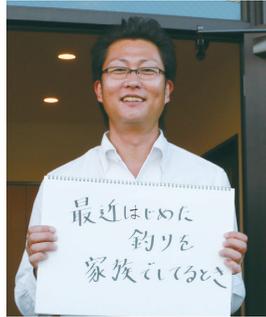
「日野川側の長い階段は、ボクのジョギングコースの難関ポイント」(マーさん)



しあわせだなあ と感じるときは? PART ②



209. 南日野保育園 園長



210. ファミリーホール港南台斎場 マネージャー



211. クレオパトラと忍者になりたい2人組



212. 港南台駅前郵便局 局長



213. 港南台総合斎場



214. デイサービス プレゼンス スタッフ



215. 日野南小学校 教諭



216. (株)リビングパートナー 代表



217. 小川不動産で新居を決めたお客様



219. イヨリダンススクール港南 講師



218. 港南福祉ホーム第2 ひまわりのみなさん

今回のマップは公園特集。紹介できたのは一部だけど、まちの人たちが「ふ〜のん」持っている公園で遊んでくれたらいいな。(岡野)

感情や記憶に言葉をつける。カタチのないものの輪郭を描く。言葉って難しい。けれど言葉紡ぐ作業はとても楽しい。(鳥海)



今まで知らなかった場所を見つける。新しい人と出会って仲良くなる。「ふ〜のん」はいつも暮らしの中にワクワクを運んでくる。(金子)

いつか深く関わる誰かとの、将来を決める言葉との、「出会い」を街が秘めていることに、「ふ〜のん」を通して気づきました。(塩崎)

港南台の魅力を感じ伝える「ふ〜のん」だけど、実は取材を通して共感できる時間の豊かさを教えてもらっているような気がする。「ふ〜のん」のもう一つの大きな役割。(さいとう)

1000人インタビューの笑顔。1枚の写真にはおさめきれない、その前とその後のストーリーがありました。(菅野)

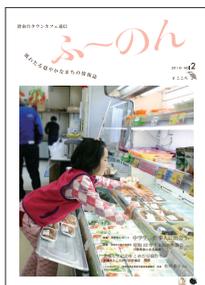
まちを歩けば何かにあたる。港南台には沢山の魅力が眠っていて、またこれから生まれる予感も。次号、一緒に魅力発見しませんか？(田中)

ゆっくり、じっくり、たまに顔を見るだけでも、味わいのあるつきあいに居心地の良さを感じる。それが「ふ〜のん」かな。(つかはら)

バックナンバー



創刊号 2010年10月発行



vol.2 2011年10月発行



vol.3 2012年10月発行



vol.4 2013年10月発行



vol.5 2014年10月発行

バックナンバーご希望の方は、下記お問い合わせまで、ご連絡ください。在庫がありましたら、お送りします。(送料負担をお願いします)

ボランティアスタッフ
(企画・取材・編集)

岡野 富茂子
金子 いずみ
菅野 裕子
塩崎 水映子
鳥海 知恵子

事務局

齋藤 保
田中 美和
野崎 智也

港南台商店会情報部会

恩田 学
岡本 征一

デザイン

塚原 祥子

その他、中学生職業体験レポート活動、インターンシップなどの活動として参加されたみなさんのご協力により編集・作成されました。

発行：港南台タウンカフェ通信編集委員会
協力：横浜港南台商店会
後援：港南台連合自治会、日野連合町内会
制作：株式会社 イータウン

次号は
2016年10月頃発行予定です。

お問合せ
港南台タウンカフェ
TEL：045-832-3855
住所：横浜市港南区港南台4-17-22 ブックスタミ2F
URL：http://www.town-cafe.jp

この冊子が、まちへの関心を生み出したり、
 新しい出会いや楽しいことが生まれるきっかけになればいい…。
 地元商店主、学生、主婦…みんなそれぞれの暮らしの中で
 まちへの想いをもってつくりあげた、参加型の手づくり情報マガジンです。
 ふ〜のんで一緒にまちを楽しんでいただけたら嬉しいです。



港南台タウンカフェサポーター募集中

「ふ〜のん」発行や、テント村運営・市民レポーター育成など、港南台のまちづくり活動推進のためにご協力をお願いします。

サポート費用 一口 1,000円（年間） 複数口も歓迎いたします
 （団体・企業様は10口以上でお願いしています）

ゆうちょ銀行振替口座 00290-0-124517 港南台タウンカフェ
 ※港南台タウンカフェでの納入も可能です（現金のみ）



詳細はこちらまで 港南台タウンカフェ TEL: 045-832-3855 FAX: 045-832-3864

あなたにできるコト



カンパで協力



サポーター
 （応援会員）になる



読み終わった「ふ〜のん」
 を知り合いに手渡す



まちのネタを集めて
 知らせる



「ふ〜のん」の
 感想を寄せる

港南台タウンカフェサポーター

村上 佳江/杉山 厚子/杉浦 真知子/多田 真理子/紙田 里美/柳 尚見（敬称略・順不同）
 ※2014年10月～2015年9月末までにご協力いただいた方をご紹介します。



吉田歯科クリニック

（株）ホームイング神奈川

金子内科診療所

（株）豆彦



「ふ〜のん」は、「彫刻と野鳥とマロニエの街・港南台」をキャッチフレーズに
 まちづくり活動を行う「横浜港南台商店会」が中心となって発行している市民
 参加型の手づくり情報マガジンです。
 商店会のみならず、地元の事業者や学校、市民ボランティアの方々との連携を
 図って編集しています。また、商店会の事業費などの他、地域の方々のサポート
 費用等で運営・発行しています。ご理解とご協力をいただくと幸いです。